

# 三中だより

令和3年度 6月号



令和3年6月 8日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 4)  
校長 小柴 憲一

## 運動会の成果

昨年度は、新型コロナウイルスの影響により10月24日(土)に実施しましたが、今年度は当初の年間計画通り5月29日(土)に実施することができました。5月の実施は、新しい学級・学年がまだ確立されているとは言えず、子どもたちの一体となったモチベーションの向上とともに、互いに気遣う集団組織になりきっているかどうかは不安材料の一つでした。

しかし、運動会前々日の最後の学年練習の終わりでは、運動会実行委員をたたえる企画を実施した学年があり、その中で拍手が出たり、実行委員に感謝や励ましの言葉をかけたりする場面を見て、一体感が出てきたと評価しました。

一方で、保護者の皆様の中にも運動会にいい思い出がなかったり、最も嫌いな行事が運動会であったりという方もいらっしゃると思いますが、運動は合唱などと同じように、好きな人もいれば嫌いな人もいるものです。そこで、運動会の前日の最後の全体練習では、「すべての友達が、運動を得意としているわけではなく、むしろ『みんなの足をひっぱったらいやだな』と思っている人もいるはずである。また、中には、手先を使った製作に困難を感じて



いる人がいるように、体を使った大きな動きが困難であったり、リズムに合わせて、持続的に体を動かすことに特別な困難さを感じている人もいることも忘れないようにしてほしい。一生懸命努力してもできないこともあるということを理解すること。どのクラスにもそのような人たちがいるかもしれないという前提に立ったうえでいい運動会にするためには、自分が出場する競技に一生懸命になるだけでなく、クラスの仲間に対しても一生懸命思いやらなければならない。」という話しをしました。ただ、私が話しをしながら子どもたちの表情を見ていて、この子たちの中には、すでに分かっている子もいるなどということを感じました。

実際に、全員リレーでは、走ることが苦手な子どもが受け取りやすいように前走の子どもが敢えてスピードを落としてバトンを渡しており、次走の子どもが体を180度反転させて正面で顔を見ながらバトンを受け取ってから走り出すという場面もみることができました。また、学年種目では男子が苦手としている状況で、女子が一生懸命応援しており、うまくいったときには女子が拍手を送っている光景も目にすることができました。そこから、勝敗や順位などの結果よりも、一生懸命取り組んでいることが最も優先されるべきことだと分かっていると感じました。



さて、初めて中学校にお子様を入学された保護者の皆様は、中学校の運動会は走ってばかりだなど感じられたと思います。小学校の場合は、必ず各学年で表現があり、1年生から6年生まで学習に応じた演技をするため、大きな楽しみの一つだと思います。本来であれば、本校の運動会では3年生だ



けの創作ダンスやマスゲームではなく、全学年による表現でした。また、小学校と同様に、中学生らしい応援合戦もありました。それらのプログラムが復活できる年が早く来ることを願っています。

また、今年度は昨年度まで実施していたスウェーデンリレーをつみきリレーに変更しました。スウェーデンリレーを楽しみにしていた2・3年生はいたと思います。しかし、運動が得意な子どもがその力を発揮できる選手種目は残しながらも、走力・体力等に大きく影響を受けず、偶然性も秘めた種目も増やしたいという考えで新たに加えました。ご覧になった保護者の方はお感じになられたと思いますが、段ボールの組み方、崩れたときのために助けに行く次走者の手際のよさなどが順位に影響していたように感じました。



運動会当日、お子さんたちは家に帰って様々な感想を話したことと思います。そこには、いい感想だけではなかったと思います。本校教職員の中でも、早速運動会の反省を行っております。そこで出てきた課題解決の方法を来年度の改善策として生かしていきたいと思っています。

直接本校にお越しいただいて、臨場感を味わいながらお子さんたちを応援できなかったことにつきましては心苦しいばかりですが、現状からご理解いただきたく存じます。

結びに、早朝からグラウンド準備、機器・機材・楽器・用具の運搬・設置、子どもたちの看護、警備、記録、ライブ配信のためにご協力いただきました、PTA役員・親父会・広報・お手伝いの皆様方に心より感謝申し上げます。

### 新型コロナウイルス感染症(回復者からのメッセージ)

先日、5月25日(火)未明、私の知人からメールが入りました。

昨年、コロナ禍に入ってから会って食事する機会もなかく、近況は全く把握していなかったの  
で、そのメールに驚き互いに返信を繰り返しました。

以下、知人からのメール文ですが、個人名や地域・施設名などは削除及び修正してあります。

● コロナに感染しました。感染ルートは分かりません。また、かかったのは普通のコロナなのか、変異株なのかも分かりません。感染したと分かったときは、誰かにうつしてしまっていないか心配でたまらなく精神的にも追い詰められました。結局、保健所の調査の結果、家族以外濃厚接触者はいなく、同僚や他社に勤める社員の方でも感染者は出ませんでした。

感染した後、いろいろありすぎましたが、今は大丈夫です。本日、5月25日退院します。

5月 1日 発熱

5月 3日 PCR検査⇒「陽性」

5月 4日 自宅療養(次第に血中酸素飽和度が下がり90%まで至る)

5月 7日 近隣の総合病院へ入院

5月10日 大学病院のICUへ転院

5月25日 退院！

5月25日 呼吸器機能の回復治療(自宅療養)

となります。

コロナと壮絶な闘いをしました。幸い家族も感染しませんでした。コロナとの闘いは、家族まで巻き込むことになりました。

しかしコロナは、感染症による大きな傷を残してくれました。

「肺にX線で白くなる部分ができる。酸素濃度が低くなり、呼吸器機能が低下する。」という

ものです。重症化しやすいといわれる症状の一つです。

ICUに入り、幸い高濃度酸素吸入のチューブタイプおよびマスクタイプのものだけで、ここまで回復しました。気管支挿管などの一手手前まで行きましたが、身体にメスを入れることなく回復しました。今は呼吸を整えてじっとしている状態であれば大丈夫なところまで呼吸器機能が回復しました。少し動くと、息があがり苦しくなりやすい状況です。自宅療養で、さらに呼吸器機能の回復に努めます。

完全な回復までは、もう少し時間がかかります。焦らず一步一步、家族と一緒に頑張ります。

コロナは陰性になっています。呼吸器機能のことは移すことはありませんので、安心してください。

- この短期間で回復することができ、今日退院できることになったのは、大学病院の先生、看護師、食事スタッフの皆様、適切な治療、看護をしていただいたおかげです。皆様に感謝申し上げます。

夜が明けると退院します。家に帰ります。ただただ、嬉しい限りです。

コロナは本当に怖いです。知り合いの方には、感染してほしくないです。皆さんも、コロナに感染しないように、くれぐれもお気をつけください。

今回のことで、医療従事者の方々の凄さを知りました。適切な治療をしてくれた医師には、当然のことながら感謝しています。

でもICUでは医師が患者に直接接触れることはほとんどないのです。ICUの部屋に入ってきて、患者に直接接触れるのは、看護師さんたちなのです。コロナ感染者である患者を目の前にして、自分が感染するかもしれない不安があるのに、その不安を出すことはありません。もちろん防護服やフェイスガード、手袋を付けていますが、笑顔で感染者に寄り添ってくれて、点滴や注射をしたり、生活の面倒を見てくれたりするのは、看護師さんなのです。その勇気、正義感、責任感には感動しました。ある意味では、医師以上に看護師さんに感謝しています。

コロナ渦が1年以上続く中、医療従事者はこのような緊張状態が続いたままです。

医療従事者は、病院の中だけでなく、通勤や家庭生活の中でも、感染しないようにさらに自分が感染していることを想定して家族に感染させないようにする緊張が続いています。

自分が回復してきて、看護師の凄さを感じていたとき、看護師さんに質問しました。

「コロナ渦が1年以上続いている中で、なぜ続けることができるのですか？」

その答えはこうでした。「自分たちを必要とする患者が目の前にいるので。」

実にシンプルですが、とても意味が深く、感染してしまった私にとっては胸が詰まる言葉でした。

- 追伸 「会社ではコロナには気をつけましょう。」と先頭に立って言っていたのに、会社の中で自分が感染者1号になってしまうとは、複雑な思いがあります。

会社と学校では、取り巻く環境や前提が異なりますが、くれぐれもお気をつけてください。

テレビ番組で、新型コロナウイルス感染症から回復者された方々のコメントを聞くことはよくありますが、身近な知人からの言葉には切実な思いをもちました。

これまで、本校からは「誰でも感染する可能性はある」「感染した人が最もつらい思いをしている」「社会復帰するに当たっては多くの心配や不安を抱いている」「だから、周囲は感染した人を温かく見守る必要がある」などを啓発するとともに、昨年度、医療従事者の方々へ感謝の手紙を送る取組みも実施しました。

あらためて、保護者の皆様も、引き続きの感染防止策を講じるとともに、本校の子どもや教職員、ご近所で感染者が確認された場合も、冷静な判断をしていただきますようよろしくお願いいたします。

## 新型コロナウイルス感染症(情報の見極めと冷静な判断)

荒川区HPでも公表されておりますが、5月29日(土)の段階で、区内のある公立中学校で5月31日(月)から6月4日(金)まで臨時休業措置が執られ、生徒・教職員がPCR検査を受けることとなりました。

そして、その情報により、「その学校でクラスターが発生した」とか、まるでその学校に通学する子どもたちや家族、通勤する教職員がすでに感染者である、もしくは感染している可能性が非常に高いという先入観をもつことになられた区民の方がいると聞いています。

しかし、これまでの当該校の感染者の確認に関する区の発表を見ていると、いずれの感染例についても保健所の調査の結果「校内における濃厚接触者はなし」と判断されています。ただし、今回、「生徒及び保護者の皆様の安心のためPCR検査を実施する」としているのであり、発熱があつてPCR検査を受けるのとは全く性質は異なります。

したがって、現在、感染が確認されていない当該校の子どもたちやその家族、教職員に対して偏見をもってはならず、ましてや偏見に基づく言動をしてしまうことは人権問題となってしまいます。

さらに、29日(土)の段階の公表では、即日の29日(土)から臨時休業措置を執らなかつたことから、当該校では、29日(土)、30日(日)は教育活動を行つていいという区教委の見解であり、区教委として緊急性がさほど高くないというメッセージを発信しています。

私たち大人社会では、一つの情報から様々な憶測が生まれ、それが人から人に伝わっていくということは日常茶飯事のようにありますし、中には有益な情報もあるのは事実です。しかし、情報の内容によっては、情報の発信場所はどこか、その情報は正確かを確かめるとともに、公式発表をもとに自分で合理的に考えていくことも時には重要ではないかと考えさせられました。

## アプリケーションソフト Google Workspace for Education の活用

荒川区では、Google Workspace for Education(以降GWEと標記します。)の活用を推進しています。GWEには「Classroom」といって、教師がクラス(学級・学年・全校等)を作成することにより、課題の配付や回収がオンラインで行うことができる機能や、「Meet」は臨時休業措置が執られた場合でも、子どもたちと同時双方向型の学びを継続することができるという機能もあります。また、GWEとeライブラリを紐付けいたしましたので、GWEにログインしてもeライブラリを活用することもできるようになっております。まだ導入されたばかりなので、本校でもこれから試行していくところです。

試行するためには、子どもたちがログインする必要がありますので、今後、個人のアドレスとパスワードを個票として配付し、生徒手帳に納めておくように、随時、指導してまいります。

今後、自宅にタブレットを持ち帰った際にも、そのアドレスとパスワードを使うこととなりますので、保護者の皆様も、お時間のあるときにお子様へ、アドレスとパスワードが生徒手帳に納められているかどうかご確認いただくと助かります。

## お知らせ

- 3年生の保護者の皆様にはお伝えいたしましたが、緊急事態宣言延長に伴い、6月10日(木)から予定していた修学旅行は延期となり7月11日(日)～13日(火)になりました。
- 鶴山裕有未教諭が8月中旬から産前・産後休暇に入ります。子どもたちには、学年・学級で「鶴山先生のお腹の中には赤ちゃんがいるので落ち着いた生活をしてください」と伝えてあります。
- 生徒会本部から「昼休みの校庭開放」の企画書について、5月26日(水)に受理したことをご報告申し上げます。今後、教職員で企画書の内容について検討してまいります。